

「きらめく秋葉区」に向けた
あなたの提案をお待ちしています

きらめきサポートプロジェクト
KIRAMEKI SUPPORT PROJECT supports your problem

令和2年度 採択事業

■応募数：8事業：①2事業 ②6事業

■1次審査（書類審査）：①令和2年6月15日（月） ②令和2年9月7日（月）

■2次審査（プレゼンテーション審査）：①令和2年6月22日（月） ②令和2年9月14日（月）

■採択事業：5事業：①2事業 ②3事業

※ ①1次募集 ②2次募集

No.	団体名	事業名	担当委員 (○発表者)
1	秋葉区田家2丁目 町内会	秋葉山地区 MTB コース作成	【1部会】 ○小林、伊藤（直） 【3部会】 原、伊藤（治）、荒井
2	新潟市防災士の会 秋葉支部	防災手帳の作成・配布及び活用のための 防災講習会等の開催	【1部会】 ○青木 【2部会】 湯田、古田、羽生、 長谷川、伊藤(美)
3	小須戸 コミュニティ協議会	在郷町小須戸ひな・町屋めぐり	【1部会】 ○小林
4	NPO 法人 新津郷土に親しむ会	「新津の大庄屋 桂家」の出版	【1部会】 ○伊藤（直）、前田 【3部会】 花水、佐々木（富）
5	新津中央 コミュニティ協議会	折り紙によるつるしびなの豪華競演	【1部会】 ○宮腰、前田 本田

令和2年度 秋葉区自治協議会提案事業
「きらめきサポートプロジェクト」事業実施報告書

令和3年3月18日

団体名 秋葉区田家2丁目町内会

代表者 住所 田家2丁目13-34

氏名 小野沢 馨

1 提案事業名

秋葉山地区MTBコース作成（副題：森林保護と活性化）

2 事業内容

(1) 目的 秋葉山地区（田家区域）を明るく楽しく人々が集える場所にする。

(2) 内容 遊休地を切り開き、MTBコースを作成・整備する。

(3) 対象者 田家住民並びに、MTB愛好家

(4) 人数 約30名

(5) 期間等 3年

3 総合評価（目的と成果）

*今回は、必要性からMTB専用コース、保守作業専用道路及びMTB・保守作業兼用道路に別けて作業を進めた。

(1) MTB専用コースの作成（完成度80%）

① 作業日：令和2年7月～12月 毎週（土）または（日曜日）午前

② 作業方法：MTB愛好者並びに協力者の手作業によるコース作成

③ 作業人員：延べ人員55人日（10人日/月×5.5ヶ月）

④ コース長：900m

(2) 保守作業専用道路（完成度70%）

① 作業日：令和2年7月～12月 毎週2日

② 作業方法：山林作業指導員と協力者が機力使用で道路作成

③ 作業人員：延べ人員88人日（16人日/月×5.5ヶ月）

④ 道路長：700m

(3) 遊歩道とMTBコースの区画標識及び安全対策（完成度90%）

① 作業日：令和2年10月～12月 20人日

② 作業方法：協力者が安全ロープ作業中カードを取付け

(4) 実施して良かった事

① コース作成作業を通じて、ボランティアで参加した協力者で色々な意見を出しながら、現地の地形に適合した特色ある2コースを作成する事が出来た。

② 自治協部会責任者から、コース作成予定箇所に希少植物が有るとの情報を得た。

③ 建設課担当者から保守作業専用道路に、倒木の危険がある立木が有るとの指摘を受けた。

4 今後の取り組み（次年度以降）*注：秋葉区建設課へ許可申請が必要

① 区役所指定立木の伐採処理

② 希少植物の保護等の検討

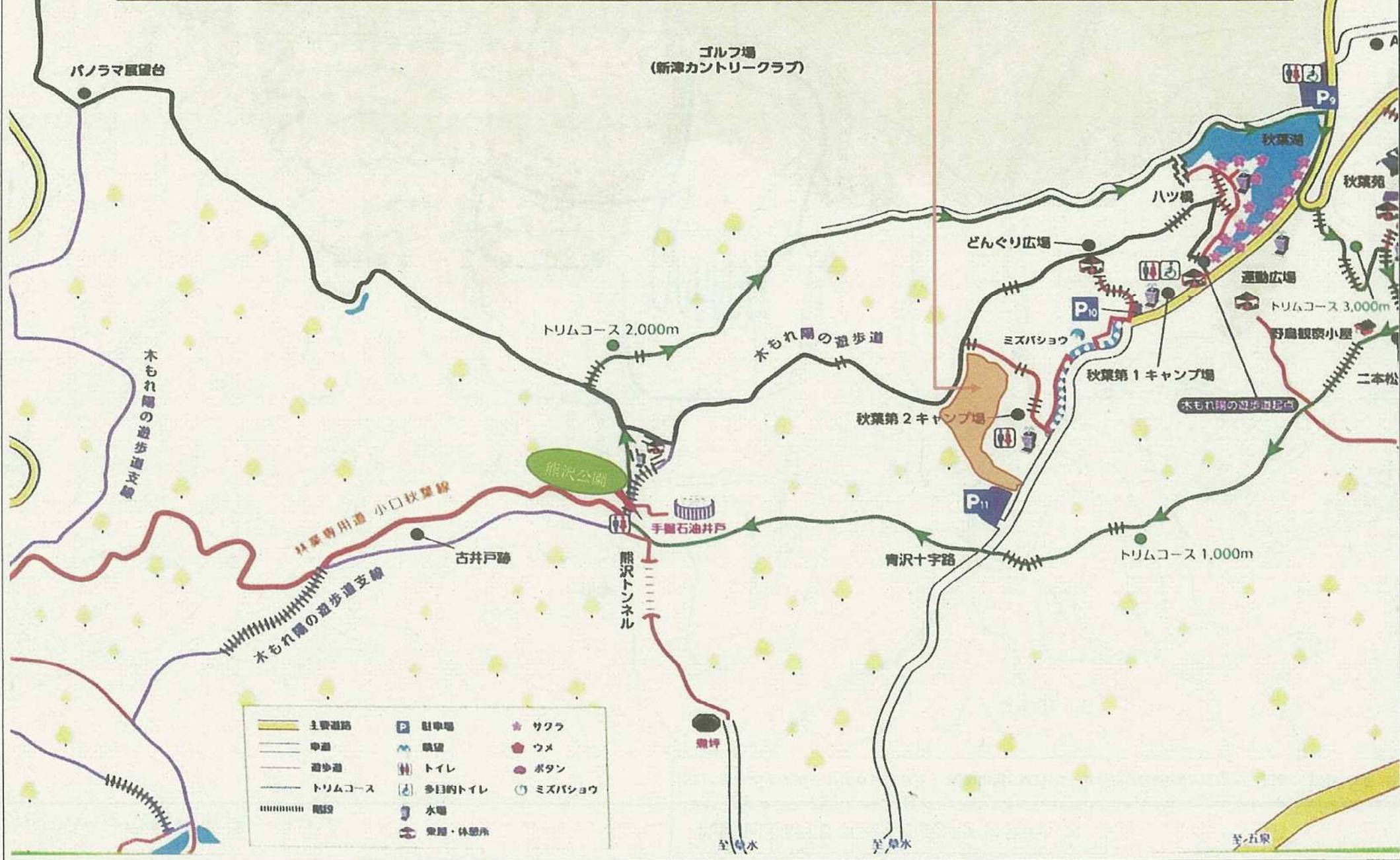
③ 新規子供向け初心者コースの作成

④ 新規上級者または中級ロングコースの作成

5 実施状況写真

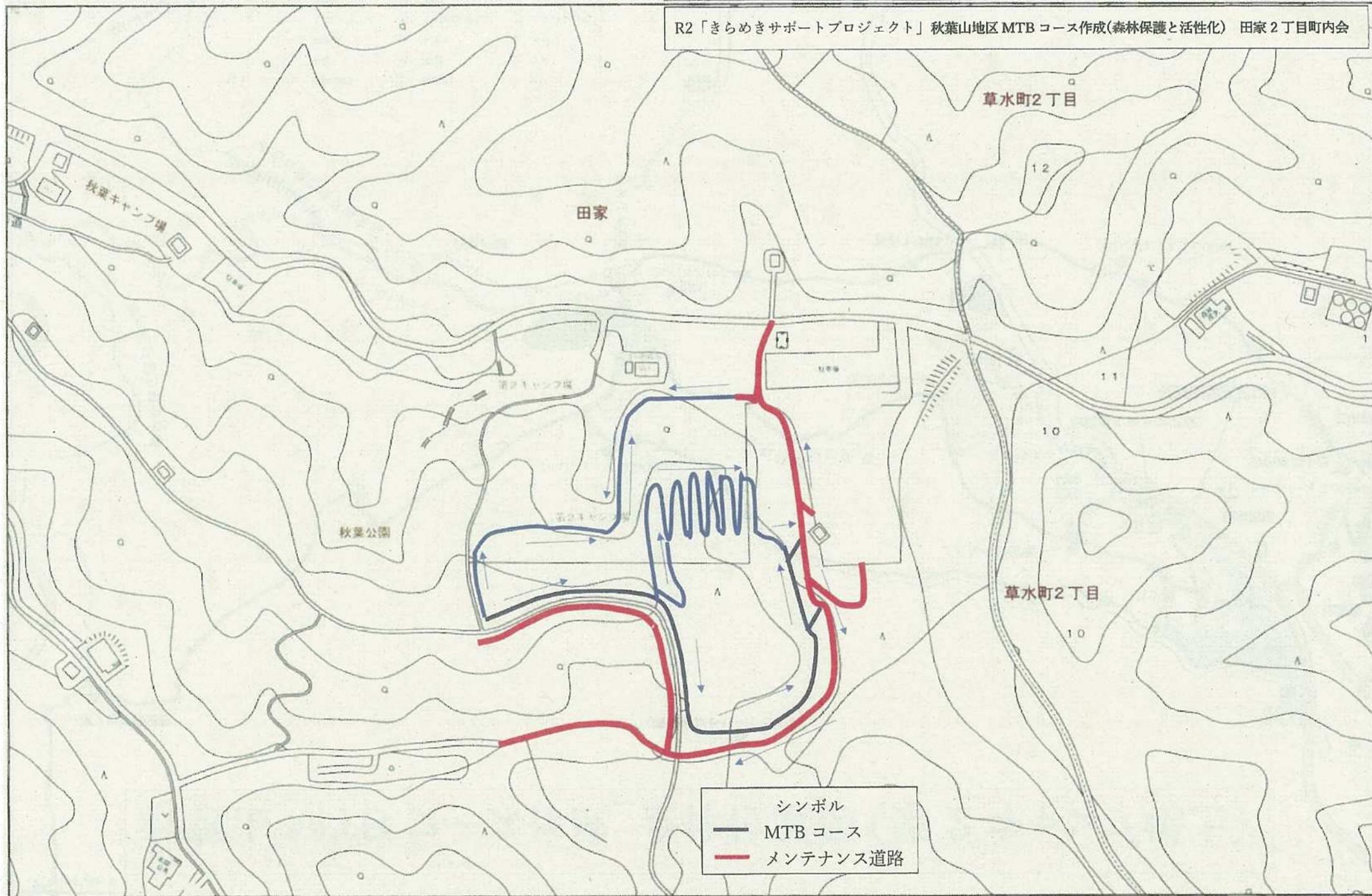
別紙

秋葉山 MTB コース作成_全体位置図(第2キャンプ場上)



秋葉地区 MTB コース作成/メンテナンス

R2「きらめきサポートプロジェクト」秋葉山地区 MTB コース作成(森林保護と活性化) 田家 2丁目町内会

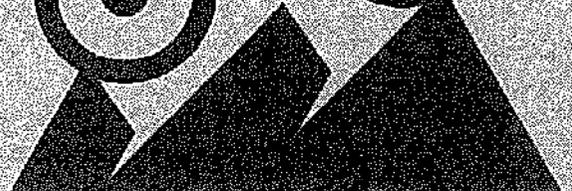


秋葉 MTB コース

初級

森林への入り口





秋葉 MTB コース

中級



秋葉 MTB コース





令和2年度 秋葉区自治協議会提案事業
「きらめきサポートプロジェクト」事業実施報告書

令和3年3月19日

団体名 新潟市防災士の会 秋葉支部

代表者 田邊 篤

住所 秋葉区金沢町1丁目6番19号

1 提案事業名

「防災手帳の作成・配布及び活用のための防災講習会等の開催」

2 事業内容

- ・秋葉区は、信濃川、阿賀野川、小阿賀野川に囲まれた地域で、南東には新津丘陵が広がり、新津断層を有しており、豪雨による土砂崩れや土石流、河川の洪水、浸水を常に念頭に置く必要がある。
- ・そこで、災害から命を守る防災情報の一助として、区民が常に携帯できる「秋葉区防災手帳」を作成する。
- ・区内全世帯に配布し、各家庭で災害から命を守る避難行動について家族で話し合い、平時の準備と、災害時の避難行動について話し合うテキストに供する。
- ・また、自治会・町内会、コミ協等での防災研修会や学習会の折、要請に応じて防災訓練、避難所開設、運営訓練の支援を行う。

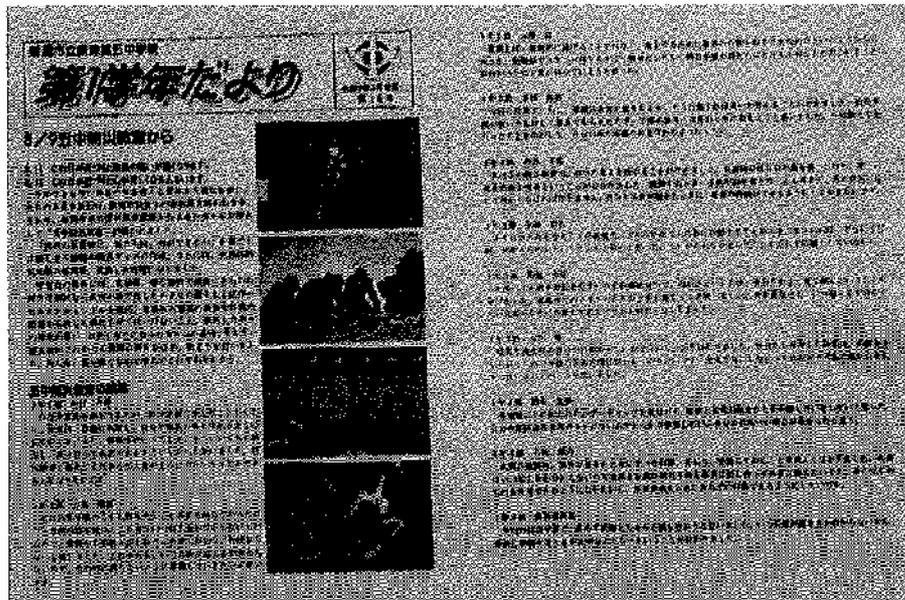
3 総合評価

- ・名刺サイズ折り畳み式手帳であることから、携帯できる長所を生かし、地震と水害に絞り、初期行動を中心に要点を絞って作成し、自治会等から「わかりやすい」等の好評を得た。
- ・各家庭2部の配付であることから、必要に応じて不足数を賄えるよう、区内全コミ協にも配付して、自由にとれるよう設置してもらうとともに、区のホームページにもダウンロードできるよう整備した。
- ・小須戸地域の山の手地区の防災活動の際、活用してもらった。
- ・新津本町2丁目の町内会から要請があり、活用の仕方について説明した。
- ・金津地区の防災活動の際、参加者に配付して、活用の仕方について説明した。
- ・区内コミセン会長・事務局長会議の折、活用の仕方について講習した。
- ・新津第五中学校の防災教育（1年生120名）で、水害の避難の心構え、新聞紙を使った避難所でのスリッパづくりと並んで、手帳の活用の仕方について講習した。
- 必要事項を絞って作成したことで、「わかりやすい」「家族で話し合いたい」「常に携帯できるのでいざという時の心構えに適している」等の声をいただいている。
- 「ただ配るのではなく、町内会の集まりの折に説明して活用を図りたい」との町内会長の声が届いている。

4 今後の取組

- ・「秋葉区防災手帳」の活用の仕方についてプレゼンテーションを作成し、要請があれば、誰でも会員が講習できるようスキル研修を行う。
- ・自治会・町内会始め学校や種々団体からの要請に応じて、講習会に赴く。

5 実施状況写真



新津第五中学校
学習後の感想

- ・避難とは避難所に逃げるのではなく命を守るために最善の行動をとること、ということが心に残った。新聞紙でのスリッパづくりは簡単だったし、防災手帳が僕たちにとってとても大切なものだとなかったので、常に持って行こうと思った(男子)
- ・もし災害が起きた時、どう行動すればよいか考えることができました。防災手帳の使い方も詳しく教えてもらったので、手帳を参考に災害の時に備えようと思いました(女子)



令和3年3月9日(火)10:35~12:15 1年生

- ・全般はグループ学習で、「秋葉区でまさかの大雨その時どうする？」で、避難行動についてグループワーク
- ・後半は2グループに分かれて、新聞紙を使ったスリッパづくりと、防災手帳の活用の仕方について学んだ。
- ・防災士3名、消防団ひまわり隊3名



令和2年度 秋葉区自治協議会提案事業
「きらめきサポートプロジェクト」事業実施報告書

令和3年3月25日

団体名 小須戸コミュニティ協議会

代表者 住所 新潟市秋葉区小須戸 120 番地 1

氏名 会長 佐藤 喜代一

1 提案事業名

「在郷町小須戸ひな・町屋めぐり」

2 事業内容

2月1日～3月7日まで小須戸地区で開催された「在郷町小須戸ひな・町屋めぐり」は、今年で5年目となりました。小須戸出張所や銀行・郵便局・JA・うららこすどや各商店合計約30店の事業者に展示協力いただきました。その中でもメイン会場の町屋ギャラリー薩摩屋・旧町屋カフェわかばの空き店舗にも多くの雛飾りを展示しました。さらに新津中央コミ協と協同で新津美術館や秋葉区役所にも雛段を飾りました。

イベント期間中には商店を見学してもらうスタンプラリーも実施し、さらに酒店の協力もいただいて期間中土曜日の午後、3店舗を巡る試飲イベントも好評でした。

3 総合評価（目的と成果）

今年でキラサポの補助を受けて5年間実施してきました。ようやくこのイベントが地域内外に定着してきたような気がします。今年度は、新津中央コミ協さんとも意見交換させていただき、今までは、小須戸コミ協で進めてきましたが、自治協議会委員さんとの協働実施で新津中央コミ協さんと共通の折り紙の吊るし飾りの展示などができてとても良かったと思います。

さらに、小須戸地区は、拠点の町屋ギャラリー薩摩屋の他に昨年好評だった新潟市の田辺さんの手造り雛飾りも旧町屋カフェわかばで展示する事ができ、入場者数も1000名を超えました。

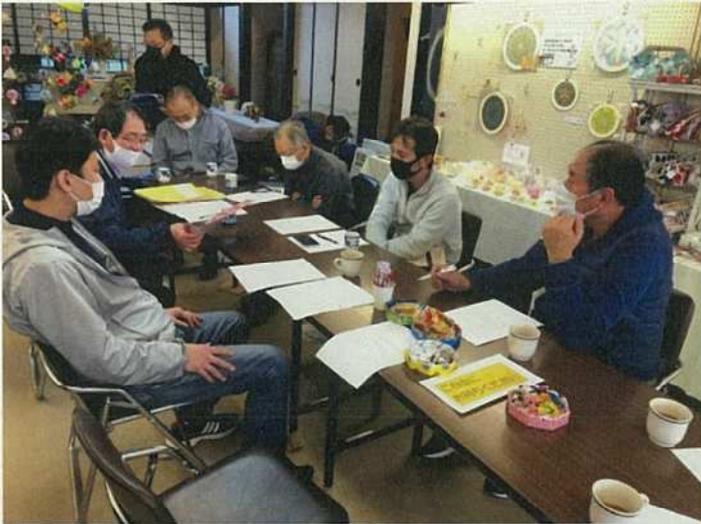
どちらの会場も見学者及び地域以外からのお客さんからも喜んでいただいていた評判のいい事業でした。また平日には幼稚園の子ども達が先生と見学に来てとても喜んでいられました。土曜日・日曜日にはその園児が親御さんやおじいちゃん・おばあちゃんと再度一緒に見学に来られた方も大勢いました。

4 今後の取り組み（次年度以降）

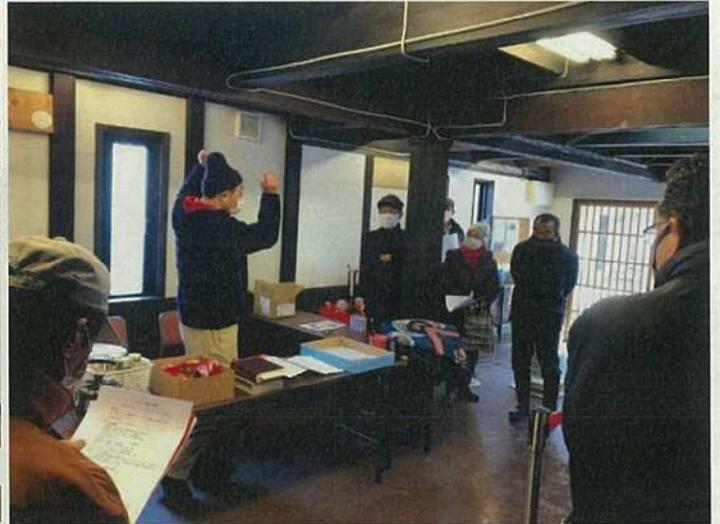
次年度も小須戸地区と新津地区で合同イベントを実施したいと思います。特に秋葉区のコミ協でできる事からスタートして、秋葉区のイベントとして定着させていければと思います。

石の上にも3年ということわざがありますが、地道にあきらめることなく継続していく努力が大切な事だと、改めて感じた事業でした。

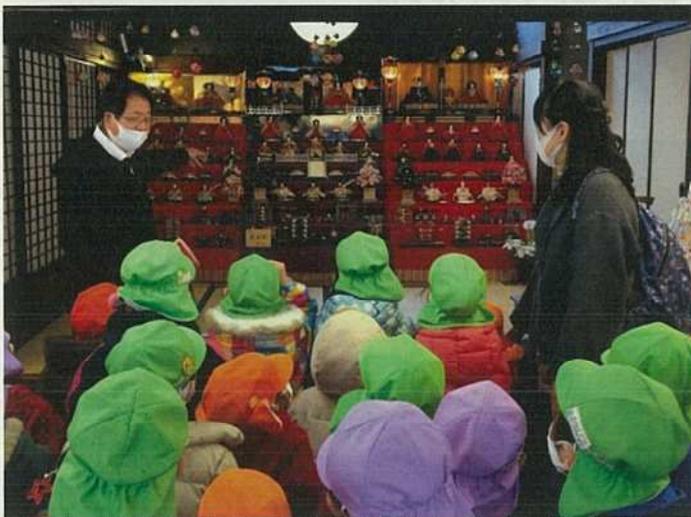
5 実施状況写真（別紙参照）



商店街代表との打ち合わせ会議



ボランティアスタッフへの説明会



小須戸幼稚園 園児による薩摩屋・わかばの見学



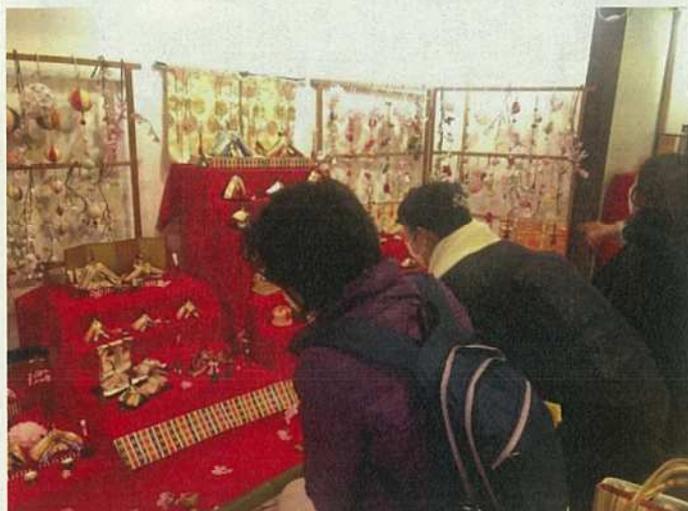
うららこすどの吊るし飾り



フラワーアレンジメントワークショップ



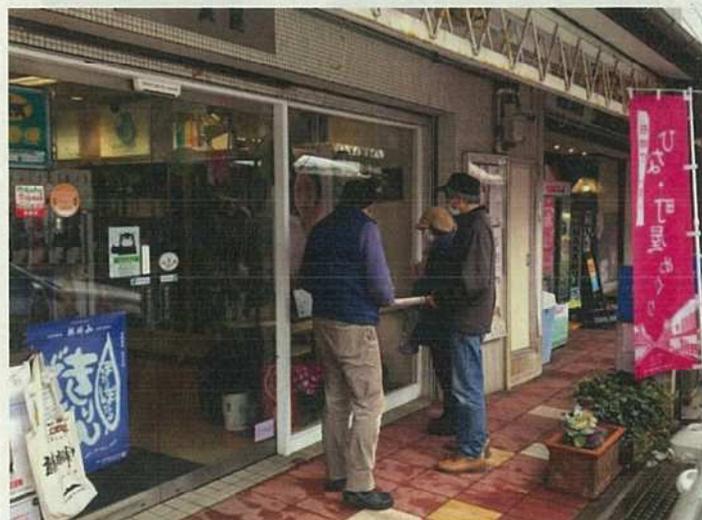
わかば会場のひな飾り



来場者でにぎわうわかば会場



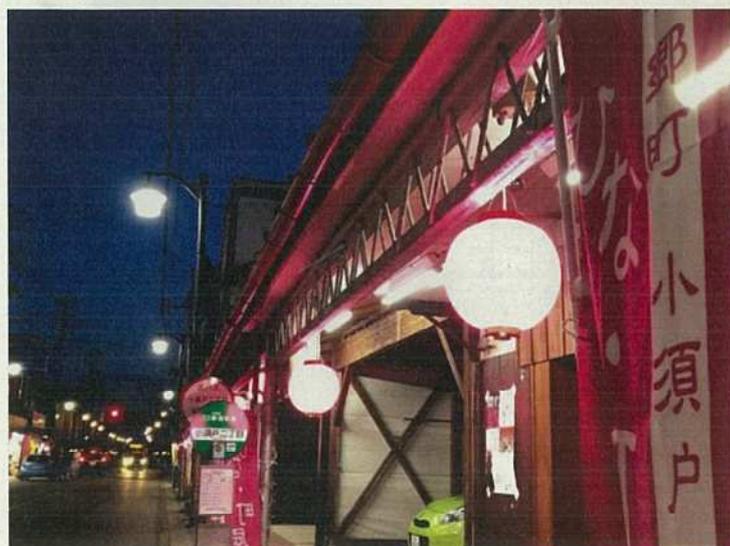
来場者でにぎわうわかば会場



ひな人形の説明をする店主



ひなめぐりを楽しむご夫婦



2月27日(土)桜提灯のともる一夜限りの夜間開館

令和2年度 秋葉区自治協議会提案事業
「きらめきサポートプロジェクト」事業実施報告書

令和 3年 3月 24日

団体名 NPO 法人 新津郷土に親しむ会

代表者 住所 新潟市秋葉区新津本町 2丁目 19-26

氏名 理事長 小林俊介

1 提案事業名

『新津の大庄屋 桂家』の出版

2 事業内容

新発田藩内でも重用された『新津の大庄屋桂家』に関するまとまった書物がないため、当会では四年前から調査・研究に取り組み、調査内容をまとめて書籍化することを目的に事業を進めてきた。しかし、無名の私どもだけでは広く出版を認知してもらうことに不安があった。そこで自治協議会の皆様の知恵を借りながら『新発田藩 越後蒲原の大庄屋 桂家』という名称で書籍をまとめることができた。

当初 B5 版で 100 ページほどの本を作るつもりであったが、夏過ぎ頃から次々と新しい真実が発見されたため 11 月末での校了が延びに延び 1 月半ばまで校正作業が続いた。最終的には A4 版 2 段組で総ページ数 272 ページ、文字数にして 20 万宇を優に超える大作となった。

新発見のことがらも多く見つかっている。良寛禅師の研究に関しても新しい知見が発表された。この書物を活用して新津の地域おこしなどに発展していくことを願っている。

また、書籍出版を広く広報するために、『出版記念講演会』を秋葉区文化会館で開催した。非常に関心が高く、最終的に 280 名ほどが入場した。コロナ禍のため入場を半数に制限した中で満席となった。

講演会当日の 2 月 13 日に文化会館で書籍を発売したが、150 冊ほど販売することができた。当初は、50 冊も売れないと思っていたが、うれしい裏切られ方であった。新津地区の方々や新津高校卒業生たちの関心の深さが窺えた。

3 総合評価（目的と成果）

目的：『新津桂家の書籍の完成』は、【新発田藩 越後蒲原の大庄屋 桂家】という書籍名で発刊することができた。内容も A4 版 2 段組で総ページ数 272 ページ、総文字数 20 万字を超える大作となって完璧に達成された。

広報活動・市民への浸透状況：チラシとポスターを中心に広報をした。チラシの区内各戸配布は予算の関係でできなかった。秋葉区内のコミ協の協力をもらい地域交流センターなどにポスターとチラシを置いてもらった。

講演会場の予約がほぼ満杯になってから新聞にでたので、できればもう少し早めに新聞には掲載してもらいたかった。

この本を出版したことでの動き：出版の前後からいろいろと電話や手紙が来ている。

1. 新発田古文書研究会の方々が、新発田市立図書館に収蔵されている古文書から桂家を集中して取り上げて一緒に研究活動をする事となった。その手始めに、今月末には、桂家についての講演会を新発田古文書研究会で行う事が決定された。
2. 新潟薬科大学の先生より連絡があった。この書籍を購入して読んで知ったことらしいが、明治の初めアメリカの博覧会に新津の紅茶が出品されたのを知り、是非このお茶を再現したいので協力をしてくれという申し出があった。学生と地域の人たちと一緒にゆくゆくは新津の名物となるようなことを目指して【新津の紅茶】として育て上げたいとのことであった。
3. 全国良寛会会長より連絡があり、良寛に関する講演を依頼されている。
今までの《聖人・無垢の人》というイメージとは異なる桂家との関わりから見た良寛像が今までとは大変違うことが波紋を拡げているようである。
4. この書籍については、国立文化財機構奈良文化財研究所の近代の研究者たちからも高評価を頂き、近代の研究室と研究所の図書館へこの書籍を用意したいとの申し出があった。
5. 新津図書館はもちろんのこと、新発田市立図書館や新潟県立図書館より複数冊購入したい旨の申し出が来ている。
6. 書籍を販売する場所として、むらき呉服店とにいつオーサカヤさんをお願いした所、この書物が介在して「お客さんと会話が弾んでとてもよい。」との声が入っている。
また、にいつオーサカヤさんでは、本を買うと必ずケーキなども買っていたのでとってもありがたい。との声もある。町なかでの書籍の販売もかなりの数に上っている。
上記お店屋さん和本の英進堂さんに当初用意した 100 冊はすぐになくなった。

以上、全く予想しなかった高評価を頂いていると思う。

4 今後の取り組み（次年度以降）

① 今後も調査・研究が継続することとなった。

当初、このNPO法人新津郷土に親しむ会は、この書籍の出版を最後に、会を解散することにしていましたが、周囲から桂家を一緒に調査・研究しましょうとの声がかかり、新年度からは、調査・研究に特化した会として活動することとなった。

この仲間には、新発田古文書研究会だけではなく、桂家研究を20年以上前から行っており、桂家関係の書物を3冊出版している東京在住の桂尚樹氏も参加することとなった。氏からは桂家に伝わる口伝なども含め新事実が期待される。

② 講演も大変好評であったが、①の調査・研究を継続することでシリーズでの桂家に関する講演会活動を行う予定である。

③ 会の活動が別次元に昇ったことで、この本の増補版を執筆することになった。

調査・研究が継続したことにより、今後は研究成果を発表書籍化という動きになりそうである。この増補版については、公的な支援を活用したいと思っている。

④ 田家の大善庵の観音様を目玉として田家、秋葉を巡り、お昼は新津地区の割烹で食事をしてもらい、午後からは江南区沢海の北方文化博物館や田上の椿寿荘などを巡るなどの観音信仰のコースを企画している。

⑤ 新津の町巡りを再構築する予定である。

田家地区ではすでに形作ったように、当コミ協では、コロナ禍が過ぎてからにはなるが、秋葉地区においても、地域の人たちが中心となったガイドを養成する方向で準備をしている。

これまで、町巡りというと一人、あるいは二人のガイドに任せて町巡りをすることが基本であったが、やはり地域の人たちが中心となり自分たちの住む地区のガイド役となるようにすべきである。そうすることによって、地域住民自身が自分の住む地域のお宝を再認識し誇りを取り戻せるのだと思う。

⑥ 新津のお土産として新津の紅茶を再現するプロジェクトを開始する。

薬科大学の先生の指導の下、学生・地域などが一緒になって継続的な地域の遊び場が作られたら楽しいと思う。

④～⑥など、企画・参加する人たちの間にお金が回るように目指すことが大切なのだと思う。お金が動けば、継続する可能性が出てくるのである。

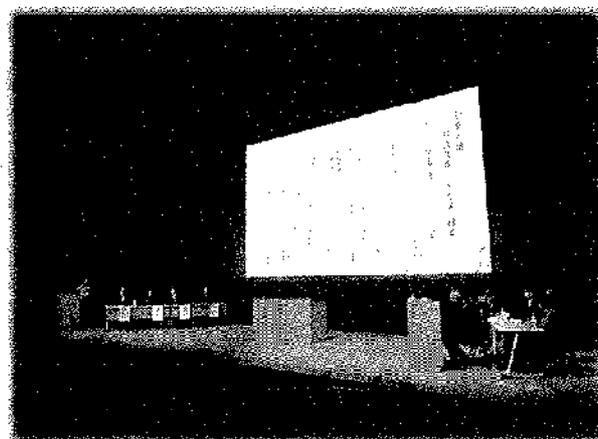
5 実施状況写真（※ 別紙でも可）

次ページ参照

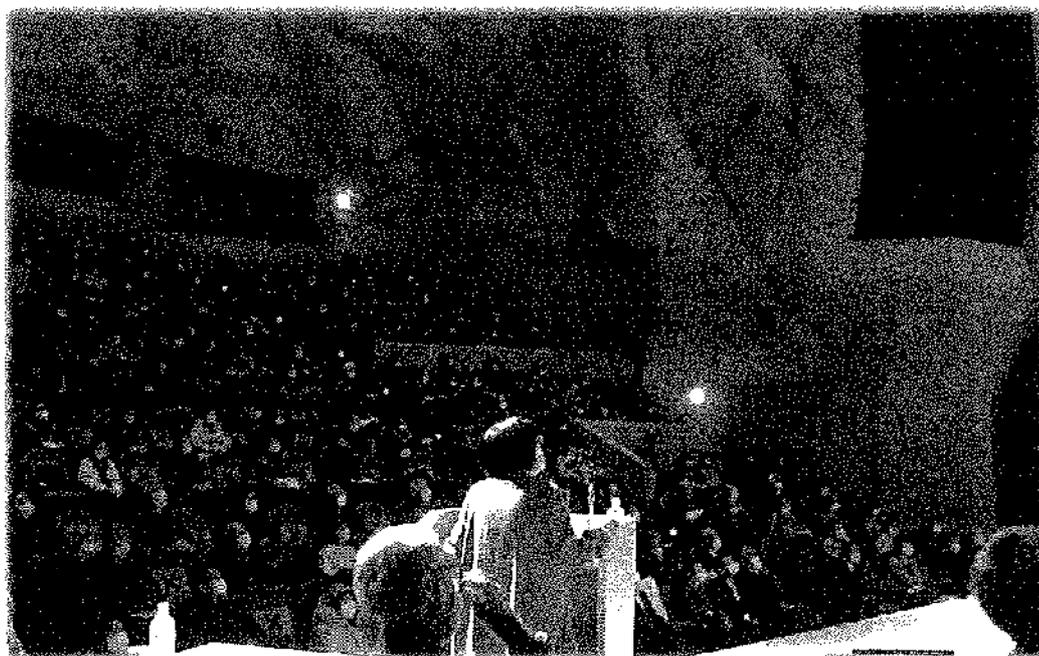
完成した書籍《新発田藩 越後蒲原の大庄屋 桂家》と講演会の様子の写真です。

完成した【新津桂家の本】『新発田藩 越後蒲原の大庄屋 桂家』

A4版 2段組 総ページ数 272 ページ、総字数 20 万字強



2月13日(土)13時30分～ 秋葉区文化会館にて『出版記念講演会』を開催した。
コロナ禍で入場定員が1/2に制限されたが、立ち見が出るほどの盛況であった。



『新発田藩』

越後蒲原の大庄屋桂家』

出版記念講演会 式次第

司会進行 当会理事 長橋修

一、主催者「挨拶」

〒〇法人新津郷土に親しむ会 理事長
郷土に親しむ会 桂乃部会 会長

小林俊介

二、「祝辞」 秋葉区長 夏目久義様

三、「桂宗家」挨拶 第十二代桂蒼宣様

四、来賓講演

【桂家住宅とその大工】

奈良文化財研究所研究員 目黒新悟様

五、会員講演

【今に問う！ 新津の大庄屋桂家】

その一 『桂家代々の事績』 広瀬秀

その二 『恩光』 そして

田家 田家大善庵の仙像』

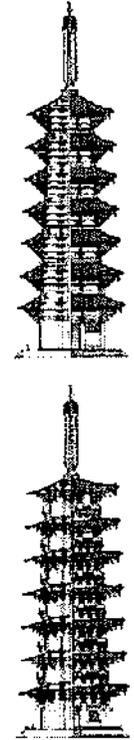
小林千枝子

六、閉会の「挨拶」

当会理事 土田敏雄

東大寺東塔 復元案を追究

奈文研研究員 目黒 新悟さん



●東大寺東塔西景Ⅱ「奈文研紀要2020」掲載図から一部改変

奈良

奈良市の奈良文
化財研究所（奈文
研）が今年9月に発行した紀要

で、かつて東大寺（奈良市）にあつた鎌倉時代の東塔の二つの復元案を示した。担当として携わつた研究員の目黒新悟さん（28）は「次は奈良時代の創建期の復元案を追究したい」と意気込む。

新潟県出身。中学生で建築家を志し、県内の工業高校に進学。東京工業大学の大学院時代、歴史的な街に溶け込む現代建築を研究しようと、1年間イタリア・ミラノの大学に留学した。大学の研究所にも所属し、新しい建物の設計や古い建物の改修に取り組んだ。

歴史的な街並みが広がるミラノでは、新しい建物は周囲と調和するデザインが求められた。現代建築は、古代や中世の建築

の流れをくむものもある。現地の建築史の知識も必要と思ひ、実地研修を通して学んだ。

同じ頃、日本人建築家が建築界のノーベル賞といわれるプリツカー賞を立て続けに受賞。彼らのルーツが日本建築にあると考えた学生から多くの質問を受けた。すぐに答えられず、調べ返すこともあった。すぐに興味湧き、日本建築の工法の変遷のほか、茶室など文化的な背景も調べた。

帰国後、奈文研に就職。いまは東大寺東塔の復元研究と並行して江戸時代の民家の研究も行う。目黒さんは「現存しない建物を、文献を参考に考えるのが復元研究の醍醐味」。将来は「幅広い歴史観とグローバルな視点で、現代も含めた建築の研究を続けたい」。

（渡辺元史）

令和2年度 秋葉区自治協議会提案事業
「きらめきサポートプロジェクト」事業実施報告書

令和 3年 3月 25日

団体名 新津中央コミュニティ協議会

代表者 住所 新潟市秋葉区新津本町 1-2-39

氏名 中村 信也

1 提案事業名

折り紙による つるしびなの豪華競演

2 事業内容

当初 鉄道のまち にいつ ひなとお宝巡りであったが、コロナ禍のため商店街が不参加となったため、事業名を変更し2月1日～3月7日の期間、交流センターで吊るしびなのみの展示となりました。今回で2回目となる事業であり、昨年は小須戸地区と合同で実施いたしましたが今年は単独事業として実施しました。保育園、こども園、幼稚園、小中学校、介護施設の他地域の茶の間、老人クラブなど合計34団体44個の作品を展示、また大型モニターで作成風景などを放映しました。

3 総合評価（目的と成果）

今回は計画段階から秋葉区内（小須戸地区を除く）の団体に参加を募り、説明会を2回に分けて実施、昨年との状況説明および作成方法などを実演し必要備品を配布しました。

展示には協関係者約30名に参加してもらい多少反省点があるもののスムーズに立ち上がりました。展示後あつたたくさんの作品の中に入って見上げるとそれは大変圧巻でした。期間中に訪れた方々は約3,000人（土日祝祭日は約2,000人）。園児たちや子供連れの方たちは自分たちの作品を探し見つけたり、大型モニターに写っている作成風景を見ながら、ワーワーと歓声が上がり大変ほっこりする楽しい催しでした。その姿を見ていると来年からもやり続けたいと思った次第です。見に来てくれた方々は他の作品を見て次回の参考にしていました。またTeNY新潟テレビが生中継に来てくれました。もうやめられない事業になりました。チラシ・ポスターの製作、のぼり旗の設置、大型モニターでの放映、小須戸の作成してくれた折り紙で作った置き鞆の配布、普段、土日祝祭日は閉まっているコトワッチの開店等が大きく貢献をしたと思います。また写真撮影をさせていただき、即プリントし差上げたところ、大変感謝されました。次回につなげたいと思います。

しかしコロナ禍で商店街の皆様不参加が大変残念でなりません。次回期待したいと思います。

4 今後の取り組み（次年度以降）

作業工程や実施方法等改善点はありますが、大きくは、今回参加いただけなかった団体へのミニミニだよりの配布や他企業への新規参加呼びかけにより参加団体を増やすこと、のぼり旗の有効利用（交流センター周りの強化、新津駅エコーズ内への設置、商店街への動線としての設置等）や交流センター内の有効利用、新潟薬科大学の協力要請などを実施、小須戸地区、美術館、鉄道博物館への動線確保など秋葉区全体の行事となるような基礎を築いていければと思っております。まずは小須戸と一日をかけて楽しめるようなイベントをぜひ実施し、記念撮影即プリントも実施したいと考えています。

5 実施状況写真：別紙ミニミニだよりをご覧ください。

以上。



**新津
中央**

コミュニティだより



発行者：新津中央コミュニティ協議会(新潟市秋葉区新津本町1-2-39 Tel. 0250-24-4219 Fax 0250-24-4229) 発行人：中村信也
URL <https://niitsuchuo.jimdo.free.com/>

折り紙による つるしびなの豪華競演



ほっこり空間を、体験しましたか？



令和2年度の活動を終えて



新津中央コミュニティ協議会
副会長 小林俊介

今年は、昨年度末からの新型コロナ禍が影響して前半の会議がほぼ全滅という状況でした。そのため前半のグリーンカーテン事業が開始して十年という節目でありましたが式典ができず残念でした。

しかし、後半の活動は人数の制限は受けたものの「秋の文化・歴史ウォーク」にしても「折り紙による つるしびなの豪華競演」にしてもコミ協全体で事業をすることが定着してきたように思います。特に「折り紙による つるしびなの豪華競演」は、ますます大きなものに成長する可能性を感じます。専門部員の皆さんが『させられる』から『している』へ意識が変化することで、モチベーションがグッとアップしているようです。

《失敗を恐れずに、楽しみましょう！》をモットーに
コミ協活動をおこなってゆきます。

在郷町小須戸 ひな・町屋めぐり 2021 2/1～3/7



町屋
ギャラリー
薩摩屋



旧町屋
カフェ
わかば



新潟市小須戸
まちづくりセンター



うらら
こすど



小須戸地区では、小須戸コミ協と商店街などを中心に、ひな祭りイベントが開催されました。

大小さまざまなかたちの段飾りやつるしびな等が、このイベントを盛り上げていました。また、スタンプラリー・ワークショップや着物でまちあるきなどもおこなわれました。



編集後記

令和3年の幕明けは、35年振りに積雪が1mを越える大雪となり、大変な思いをされた方が多かったと思います。また、令和2年度を振り返ると新型コロナ禍により、先の見えない不安感と自粛による閉塞感に苛まれた1年でした。

コミ協の活動も制限され、様々な事業が中止となりましたが、今年度最後の事業である《折り紙による つるしびなの豪華競演》と《金森敦子 歴史・文化講演会》は、万全なウィルス対策をとり、大好評のうちに無事終了しました。今号では、その特集を組みましたのでどうぞご覧ください。

来年度は、新型コロナ禍が収束して、穏やかな気候の下で安心して暮らせることを期待したいと思います。
【広報部 岡崎 記】

(注)新津中央コミュニティ協議会の各種事業は、主に新潟市からの補助金により賄われています。



夏目秋葉区長を囲んで。



TV放映されました。
＜Teny テレビ新潟＞

2月5日(金) 16時30分ごろ
「夕方ワイド新潟一番」内で
紹介されました。



オールコミ協で飾り付けをおこないました。

令和3年2月1日(月) から3月7日(日) までの35日間
新津地域交流センターほっこり空間で開催されました。大勢
のみなさんから参加していただきました。

昨年ご好評をいただいたこのイベント。つるしびなが
グレードアップされ、個性豊かなものになっていました。
また、昨年を上回るみなさんに見学に来ていただきました。

新型コロナ禍での開催でしたが、この空間で生まれたほっ
こり感を、笑顔と一緒に持ち帰られたなら幸いです。ご協
力ありがとうございました。



ほっこん *Feel Warm* 😊 Family

